

# 和歌山県立近代美術館 コレクション展 2017-夏 出品目録

2017年5月30日（火）— 9月10日（日）

- ◇出品作品についておよその展示順に、作家名（欧文表記／生没年）、作品名、制作年、技法・材質、寸法（cm）、および所蔵註記の順で記載しています。
- ◇作家名のあとの☆は和歌山ゆかりの作家を示しています。所蔵者の記載がない作品は当館蔵、#は受託している作品、bは滋賀県立近代美術館所蔵作品です。
- ◇都合により、出品作品を変更する場合があります。

~~~~~

高井 貞二（TAKAI Teiji／1911 大阪府—1986 東京都）

《想ひを》 1935（昭和10） 油彩、キャンバス 112.5×145.8

机の上の本から目を上げて、想いをめぐらす人物。手にしたパイプから流れだす煙が、その想いを形にするかのように、人や景色を浮かび上がらせながら流れ、やがて消えていきます。机の上の本には行進する馬車の絵。どんなことが書かれているのでしょうか。この人物はなにを想っているのでしょうか。

この絵を描いた高井貞二（たかいていじ）は大阪生まれですが、高野口で育ち、若いときから活躍を始めました。この作品も20代半ばに描いたものです。

最近、タバコは健康への害があるとして吸わないように勧められますが、この作品が描かれたのは1935（昭和10）年、今から70年以上前で、人の想いをうつしだすには適当な題材と考えられたのでしょうか。他にも現在では使わない言葉が題名となっている作品もありますが、作られた時代を反映するものとして、そのままで紹介しています。

## 近代日本の美術—洋画の展開1

「近代」という時代がいつ始まり、どのような特徴をもつのかについては様々な議論があります。ただ、日本の場合は江戸幕府による鎖国が19世紀の半ばに解かれ、西洋の文化、文明を取り入れ始めることで近代化が進められたという特色があります。

明治時代になって学ばれるようになった西洋の文化の中には、芸術も含まれていました。

1876（明治9）年に設立された工部美術学校（こうぶびじゅつがっこう）は、国が設立した日本最初の美術教育機関で、イタリア人を教師に雇い、西洋の美術が教えられました。現在の和歌山市で生まれた神中糸子（じんなかいとこ）は、この学校で学んだ一人でした。

西洋美術が学ばれたことを端的に示すのが、西洋から伝わった画材による絵画が多く描かれたことです。「西洋絵画」を略して「洋画」という言葉も使われるようになります。

一方の西洋では、19世紀後半から印象派をはじめ、フォービズム、キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスムとった、新しい表現の試みが次々に生まれてきます。

芸術を志した人たちは、西洋由来の材料による描き方とともに、最新の美術についての考え方を吸収しながら、独自の表現を試みていくこととなります。

神中 糸子（JINNAKA Itoko／1860 和歌山県—1943 兵庫県）☆

《海岸風景》 1888-92（明治21-25） 油彩、キャンバス 38.0×80.4

中村 不折（NAKAMURA Fusetsu／1866 東京都—1943 東京都）

《白頭翁》 1907（明治40） 油彩、キャンバス 200.2×136.6 #

|                                                   |                     |          |                 |   |
|---------------------------------------------------|---------------------|----------|-----------------|---|
| 鹿子木 孟郎 (KANOKOGI Takeshiro/1874 岡山県 - 1941 京都府)   |                     |          |                 |   |
| 《パイプを持つ男》                                         | 1906 (明治39)         | 油彩、キャンバス | 79.6×64.0       |   |
| 梅原 龍三郎 (UMEHARA Ryuzaburo/1888 京都府 - 1986 東京都)    |                     |          |                 |   |
| 《小川 (ブルターニュ風景)》                                   | 1909 (明治42)         | 油彩、キャンバス | 24.6×32.4       | # |
| 保田 龍門 (YASUDA Ryumon/1891 和歌山県 - 1965 大阪府) ☆      |                     |          |                 |   |
| 《コオニユリのある風景》                                      | 1912 (明治45/大正元) 頃   | 油彩、キャンバス | 38.2×46.0       |   |
| 山下 新太郎 (YAMASHITA Shintaro/1881 東京都 - 1966 東京都)   |                     |          |                 |   |
| 《臥婦》                                              | 制作年不詳 (1910年代)      | 油彩、キャンバス | 79.5×140.7      | # |
| 田中 恭吉 (TANAKA Kyokichi/1892 和歌山 - 1915 和歌山) ☆     |                     |          |                 |   |
| 《ダリヤ》                                             | 1912 (明治45/大正元)     | 油彩、板     | 33.0×23.4       |   |
| 恩地 孝四郎 (ONCHI Koshiro/1891 東京都 - 1955 東京都) ☆      |                     |          |                 |   |
| 《海の女》                                             | 1912 (明治45/大正元)     | 油彩、キャンバス | 45.0×33.3       |   |
| 保田 龍門 (YASUDA Ryumon/1891 和歌山県 - 1965 大阪府) ☆      |                     |          |                 |   |
| 《トルコ帽の自画像》                                        | 1913 - 14 (大正2 - 3) | 油彩、キャンバス | 45.6×38.6       |   |
| 岸田 劉生 (KISHIDA Ryusei/1891 東京都 - 1929 山口県)        |                     |          |                 |   |
| 《黒き帽子の自画像》                                        | 1914 (大正3)          | 油彩、板     | 51.3×39.2       | # |
| 高須 光治 (TAKASU Mitsuji/1897 愛知県 - 1990 愛知県)        |                     |          |                 |   |
| 《自画像》                                             | 1915 (大正4)          | 油彩、板     | 45.4×37.3       |   |
| 寺中 美一 (TERANAKA Biichi/1892 和歌山県 - 1917 和歌山県) ☆   |                     |          |                 |   |
| 《自画像》                                             | 1916 (大正5)          | 油彩、キャンバス | 45.7×33.6       |   |
| 原 勝四郎 (HARA Katsushiro/1886 和歌山県 - 1964 和歌山県) ☆   |                     |          |                 |   |
| 《画工像》                                             | 1932 (昭和7)          | 油彩、厚紙    | 65.0×52.6       |   |
| 木下 孝則 (KINOSHITA Takanori/1894 東京都 - 1973 神奈川県) ☆ |                     |          |                 |   |
| 《後向の裸女の習作》                                        | 1925 (大正14)         | 油彩、キャンバス | 100.1×80.3      |   |
| 木下 義謙 (KINOSHITA Yoshinori/1898 東京都 - 1996 東京都) ☆ |                     |          |                 |   |
| 《赤衣半身像》                                           | 1931 (昭和6)          | 油彩、キャンバス | 91.4×73.0       |   |
| 保田 龍門 (YASUDA Ryumon/1891 和歌山県 - 1965 大阪府) ☆      |                     |          |                 |   |
| 《少女》                                              | 1925 (大正14)         | ブロンズ     | 173.5×67.0×43.0 |   |

## 近代日本の美術—日本画の世界

西洋の画材や描き方が学ばれた一方、日本で昔から行われてきた描き方もありました。

紙や絹に、膠(にかわ)で溶いた岩絵具(いわえのぐ)や墨などを用いて描く方法です。単に技法や材料だけではなく、描く題材や描き方も含めて、「洋画」に対して「日本画」という言葉が用いられるようになります。時に洋画に対抗し、あるいはその表現を取り入れながら、日本画は一つの領域として形づくられてきました。

和歌山市出身の下村観山(しもむらかんざん)は、岡倉天心(おかくらてんしん)のもとで日本美術院(にほんびじゅついん)の創設に参加し、日本画を生み出した画家の一人です。

季節の移り変わりを描き、季節ごとに飾る絵を替えていくことも、日本では普段からの美術との接し方でした。

初夏から夏にかけての風物を描いた作品を中心にをご紹介します。

|                                                     |              |        |             |
|-----------------------------------------------------|--------------|--------|-------------|
| 川端 龍子 (KAWABATA Ryushi/1885 和歌山県 - 1966 東京都) ☆      |              |        |             |
| 《白浜・円月島》                                            | 1958 (昭和33)  | 墨、顔料、紙 | 48.5×72.0   |
| 下村 観山 (SHIMOMURA Kanzan/1873 和歌山県 - 1930 神奈川県) ☆    |              |        |             |
| 《白描 魔障図》                                            | 1910 (明治43)  | 墨、絹    | 67.2×164.6  |
| 山口 八九子 (YAMAGUCHI Hachikushi/1890 京都府 - 1933 京都府) ☆ |              |        |             |
| 《暮るゝ天橋》                                             | 1921 (大正10)  | 顔料、絹   | 85.6×113.9  |
| 狩野 光雅 (KANO Koga/1897 和歌山県 - 1953 東京都) ☆            |              |        |             |
| 《草刈の笛》                                              | 制作年不明 (昭和初期) | 顔料、絹   | 153.0×56.7  |
| 坂井 芳泉 (SAKAI Hosen/1880 和歌山県 - 1942 京都府) ☆          |              |        |             |
| 《伏虎城》                                               | 制作年不明        | 顔料、絹   | 119.0×36.8  |
| 案本 一洋 (MATSUMOTO Ichiyo/1893 京都府 - 1952 京都市)        |              |        |             |
| 《岬》                                                 | 1938 (昭和13)  | 顔料、絹   | 141.5×200.0 |
| 日高 昌克 (HIDAKA Shokoku/1881 和歌山県 - 1961 和歌山県) ☆      |              |        |             |
| 《初夏峰巒図》                                             | 1953 (昭和28)  | 墨、彩色、紙 | 51.6×31.0   |
| 亀井 玄兵衛 (KAMEI Genbei/1901 和歌山県 - 1977 京都府) ☆        |              |        |             |
| 《きつつき》                                              | 1973 (昭和48)  | 顔料、紙   | 72.6×121.0  |
| 稗田 一穂 (HIEDA Kazuho/1920 和歌山県 - ) ☆                 |              |        |             |
| 《汀》                                                 | 1956 (昭和31)  | 顔料、紙   | 130.2×96.8  |

## 近代日本の美術—洋画の展開2

第一次世界大戦が1919 (大正8) 年に終わると、多くの日本人が、当時の美術の中心と考えられていたフランス、パリに渡って美術を学ぼうとしました。その頃からあこがれの対象であったフランスの作家の作品をあわせてご紹介します。

|                                                            |                    |          |             |
|------------------------------------------------------------|--------------------|----------|-------------|
| 砧 伊之助 (HAZAMA Inosuke/1895 東京都 - 1977 石川県) ☆               |                    |          |             |
| 《ブザンソン風景》                                                  | 1924 (大正13)        | 油彩、キャンバス | 50.1×60.8   |
| 東郷 青児 (TOGO Seiji/1897 鹿児島県 - 1978 熊本県)                    |                    |          |             |
| 《静物》                                                       | 1924 (大正13)        | 油彩、キャンバス | 46.0×38.0   |
| ユトリロ, モーリス (Utrillo, Maurice/1883 フランス - 1955 フランス)        |                    |          |             |
| 《ムーラン・ド・サノワのバル・レストラン》                                      | 1912-13 (明治45-大正2) | 油彩、ボード   | 37.5×54.8 # |
| ロート, アンドレ (LHOTE, Andr /1885 フランス - 1962 フランス)             |                    |          |             |
| 《ミルマンドの城壁》                                                 | 制作年不明              | 油彩、キャンバス | 33.0×24.0   |
| ヴラマンク, モーリス・ド (VLAMINCK, Maurice de/1876 フランス - 1958 フランス) |                    |          |             |
| 《風景》                                                       | 制作年不明              | 油彩、キャンバス | 38.0×45.5 # |
| ルオー, ジョルジュ (ROUAULT, Georges/1871 フランス - 1958 フランス)        |                    |          |             |
| 《サーカスの娘》                                                   | 1937 (昭和12)        | 油彩、キャンバス | 9.2×9.3     |
| 佐伯 祐三 (SAEKI Yuuzo/1898 大阪府 - 1928 パリ)                     |                    |          |             |
| 《リュ・デュ・シャトーの歩道》                                            | 1925 (大正14)        | 油彩、キャンバス | 60.0×73.1   |
| 《レ・ジュ・ド・ノエル》                                               | 1925 (大正14)        | 油彩、キャンバス | 72.3×60.8   |
| 《広告のある門》                                                   | 1925 (大正14)        | 油彩、キャンバス | 59.9×73.2   |
| 《オブセルヴァトワール附近》                                             | 1927 (昭和2)         | 油彩、キャンバス | 73.2×91.8   |

|                                                                                                                        |             |          |                 |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------|-----------------|---|
| 《カフェ・レストラン》                                                                                                            | 1927 (昭和2)  | 油彩、キャンバス | 61.0×50.3       | # |
| 鳥海 青児 (CHOKAI Seiji/1902 神奈川-1972 東京)                                                                                  |             |          |                 |   |
| 《蘇州風景》                                                                                                                 | 1939 (昭和14) | 油彩、キャンバス | 89.6×145.8      | # |
| 川口 軌外 (KAWAGUCHI Kigai/1892 和歌山県-1966 東京都) ☆                                                                           |             |          |                 |   |
| 《少女と貝殻》                                                                                                                | 1934 (昭和9)  | 油彩、キャンバス | 167.3×267.2     |   |
| 村井 正誠 (MURAI Masanari/1905 岐阜県-1999 東京都) ☆                                                                             |             |          |                 |   |
| 《URBAIN No.1》                                                                                                          | 1936 (昭和11) | 油彩、キャンバス | 112.2×194.2     |   |
| 建島 大夢 (TATEHATA Taimu/1880-1942) ☆                                                                                     |             |          |                 |   |
| 《夢》                                                                                                                    | 1939 (昭和14) | ブロンズ     | 168.5×40.0×47.7 |   |
| 浜地 清松 (HAMAJI Seimatsuo/1885 和歌山県-1947 和歌山県) ☆                                                                         |             |          |                 |   |
| 《静物》                                                                                                                   | 1922 (大正11) | 油彩、キャンバス | 64.1×73.1       |   |
| 石垣 栄太郎 (ISHIGAKI Eitaro/1893 和歌山県-1958 東京都) ☆                                                                          |             |          |                 |   |
| 《ボーナス・マーチ》                                                                                                             | 1932 (昭和7)  | 油彩、キャンバス | 145.4×107.0     |   |
| 杉本, ヘンリー (SUGIMOTO, Henry/1900 和歌山-1990 アメリカ) ☆                                                                        |             |          |                 |   |
| 《カーメルハイランド海辺》                                                                                                          | 1937 (昭和12) | 油彩、キャンバス | 80.6×106.0      |   |
| 和歌山県からは仕事を求めてアメリカに渡った人たちもたくさんいました。あるいは先に渡米した親戚を頼って、アメリカで美術を学んだ人もいます。現在の串本町に生まれた浜地、太地町生まれの石垣、和歌山市出身の杉本らは、アメリカで学んだ人たちです。 |             |          |                 |   |
| 松本 竣介 (MATSUMOTO Shunsuke/1912 東京都-1948 東京都)                                                                           |             |          |                 |   |
| 《三人》                                                                                                                   | 1943 (昭和18) | 油彩、キャンバス | 162.2×112.5     | # |

#### 戦後美術の展開—滋賀県立近代美術館所蔵のアメリカ絵画を中心に

1984 (昭和59) 年に開館した滋賀県立近代美術館は、現在大規模な再整備が進められており、施設の増築・改修のため長期に渡って休館する間、その所蔵作品の一部を当館で公開することになりました。その収集方針の一つが戦後のアメリカと日本を中心とした現代美術であり、戦後の美術表現をリードしたとされる作家たちの代表的な作品を収蔵しています。ここでは抽象表現主義に先鞭をつけたとされるアーシル・ゴーキーの作品から、多彩な展開を見せた抽象的な絵画の表現、それに続いて現れたポップ・アートをご紹介します。

|                                                    |                   |                  |             |   |
|----------------------------------------------------|-------------------|------------------|-------------|---|
| ゴーキー, アーシル (GORKY, Arshile/1904 アルメニア-1948 アメリカ)   |                   |                  |             |   |
| 《無題 (バージニア風景)》                                     | 1943-44 (昭和18-19) | 油彩、キャンバス         | 86.4×116.8  | b |
| アルバース, ジョーゼフ (ALBERS, Josef/1888 ドイツ-1976 アメリカ)    |                   |                  |             |   |
| 《正方形へのオマージュ I - SJ》                                | 1973 (昭和48)       | シルクスクリーン、紙       | 76.0×101.5  |   |
| 《正方形へのオマージュ I - SK》                                | 1973 (昭和48)       | シルクスクリーン、紙       | 76.3×101.8  |   |
| ラインハート, アド (REINHARDT, Ad/1913 アメリカ-1967 アメリカ)     |                   |                  |             |   |
| 《トリプティック》                                          | 1960 (昭和35)       | 油彩、キャンバス         | 228.6×76.2  | b |
| ニューマン, バーネット (NEWMAN, Barnett/1905 アメリカ-1970 アメリカ) |                   |                  |             |   |
| 《無題》                                               | 1966 (昭和41)       | シルクスクリーン、アクリル板、紙 | 124.1×12.6  | b |
| ロスコ, マーク (ROTHKO, Mark/1903 ロシア-1970 アメリカ)         |                   |                  |             |   |
| 《ナンバー28》                                           | 1962 (昭和37)       | 油彩、キャンバス         | 205.8×193.5 | b |

フランシス, サム (FRANCIS, Sam/1923 アメリカ-1994 アメリカ)  
 《サーキュラー・ブルー》 1953 (昭和28) 油彩、キャンバス 196.6×174.0 b

ルイス, モーリス (LOUIS, Morris/1912 アメリカ-1962 アメリカ)  
 《ダレット・ペー》 1959 (昭和34) アクリル絵具、キャンバス 234.0×367.5 b

ステラ, フランク (STELLA, Frank/1936 アメリカ- )  
 《バルパライソ・フレッシュ》 1964 (昭和39) メタリックペイント、キャンバス  
 197.5×457.2 b

ノーランド, ケネス (NOLAND, Kenneth/1924 アメリカ-2010 アメリカ)  
 《カドミウム・レイディアンス》 1963 (昭和38) 油彩、キャンバス 237.0×241.0 b

クリスト (CHRISTO/1935 ブルガリア- )  
 《梱包されたライヒスターク/ベルリンのプロジェクト》  
 1986 (昭和61) 鉛筆、木炭他、紙 144.7×165.4

ウェッセルマン, トム (WESSELMANN, Tom/1931 アメリカ-2004 アメリカ)  
 《シースケープ#8》 1966 (昭和41) アクリル絵具、キャンバス 172.9×106.8

バスキア, ジャン=ミッシェル (BASQUIAT, Jean-Michel/1960 アメリカ-1988 アメリカ)  
 《無題》 1983 (昭和58) シルクスクリーン、キャンバス 146.0×192.0

ローゼンクイスト, ジェームズ (ROSENQUIST, James/1933 アメリカ- )  
 《F-111 : 南/西/北/東》 1974 (昭和49) リトグラフ、シルクスクリーン、紙92.8×738.3

カロ, アンソニー (CARO, Anthony/1924 イギリス-2013 イギリス)  
 《カタロニアのふぶき (カタロニア・シリーズ) 》  
 1987-88 (昭和62-63) 鉄 104.5×60.0×72.0

ノグチ, イサム (NOGUCHI, Isamu/1904 アメリカ-1988 アメリカ)  
 《空虚》 1971 (昭和46) /1979 (昭和54) 鑄造 ブロンズ 116.0×86.0×66.0

シーガル, ジョージ (SEGAL, George/1924 アメリカ-2000 アメリカ)  
 《煉瓦の壁ぞいに歩く男》 1988 (昭和63) 石膏、木、アクリル絵具、他264.6×359.9×270.4

## 特集 おはなしのなかへ

昔から人間は、いろいろなおはなしを描いたり、形づくったりしてきました。

実際に起こったできごとや、だれかが考えついたものがたりが、語り継がれて神話や伝説になったおはなしや、小説家が書きとめたおはなし。そんなおはなしの場面や内容を形にしようと、多くの作品が作られてきました。

このコーナーでは、おはなしによってかきたてられた想像力が生みだした美術作品を見ていきましょう。

いろいろなおはなしを形にすることは、美術作品が作られる大きなきっかけの一つになってきました。おはなしは想像力、つまり何かの姿や形を思い描く力を刺激してくれるのです。

おはなしの一場面を描いた作品もあれば、作品そのものが一つのおはなしであるような作品、そしておはなしが演じられる舞台や演じる俳優など、おはなしの描き方もいろいろです。

おはなしを通じて作品のなかへ、そして作品からおはなしのなかへ入っていきましょう。

### おはなしのかたち

保田 春彦 (YASUDA Haruhiko / 1930 和歌山県 - ) ☆

《伝説》 1957 (昭和32) 木 99.5×36.5×39.2

細長く引き伸ばされたような動物の頭。角がありますから牛でしょうか。ギリシア神話に登場する頭が牛で体が人間の怪物、ミノタウロスを思わせます。

保田 龍門 (YASUDA Ryumon / 1891 和歌山県 - 1965 大阪府) ☆

《読書》 1921 (大正10) 油彩、キャンバス 65.5×53.0

西村 陽平 (NISHIMURA Yohei / 1947 京都府 - )

《百科事典につぶされた松本清張》 1990 (平成2) 紙 14.0×30.0×20.0

おはなしはどこにあるでしょう。本で読みますか。おはなしはどんなかたちをしているでしょう。本の中には文字で書かれていますが、いろいろな作品もいろいろなかたちでおはなしをものがたるものです。

川口 軌外 (KAWAGUCHI Kigai / 1892 和歌山県 - 1966 東京都) ☆

《無題》 1935 (昭和10) 油彩、キャンバス 162.3×111.8

題名が付けられていない作品ですが、3人の人物に大きな蛇が絡みついています。トロイアの神官ラオコオンが、木馬の受けとりを反対したため、女神アテネのつかわした海蛇に襲われて、2人の息子とともに殺されたおはなしを下敷きにしているようです。

保田 龍門 (YASUDA Ryumon / 1891 和歌山県 - 1965 大阪府) ☆

《すさのおの命 / 大国主命 (おおくにぬしのみこと) とすせり姫》

1942 (昭和17) 木 44.5×71.0×17.0

いずれも日本神話に登場する神々です。すさのおの命の娘、すせり姫は大国主命と結婚し、家に連れ帰ってすさのおの命に紹介したところ、すさのおの命は大国主命を蛇や蜂、ムカデがいる部屋に寝させたり、頭にいるムカデを取らせたりします。すせり姫の助けでこれを切り抜けた大国主命は、眠ったすさのおの命の髪を柱に結びつけ、生大刀と生弓矢、天詔琴を持ってすせり姫を背負って逃げ出したとされます。紀の川改修工事のときに川底から掘り出された樟の巨材の一部を用い、片面に髪の毛を柱に結びつけられたすさのおの命、片面にすせり姫を背負って逃げる大国主命が彫刻されています。

中村 康平 (NAKAMURA Kouhei/1949 石川県 - )

《Resurrection》 1991 (平成3) 陶 55.0×52.5×40.0

荒木 高子 (ARAKI Takako/1921 兵庫県 - 2004 兵庫県)

《頽廢の聖書》 1983 (昭和58) シルクスクリーン、磁土 14.5×22.3×20.3

キリスト教の聖典である聖書には、たくさんのおはなしが記されており、聖書をもとに数多くの作品が描かれています。鎖や布が陶器で作られている中村康平の作品は、《Resurrection》という題名ですが、これは「復活」という意味です。十字架にはりつけとなり息絶えたイエス・キリストは、三日後によみがえったとされています。十字架やキリストを十字架に打ち付けた釘、キリストにかぶせられた茨の冠などは、聖遺物として信仰の対象になっています。鎖はキリストを縛り付けたものでしょうか、十字架から降ろす時につかわれたものでしょうか。

山中 嘉一 (YAMANAKA Yoshikazu/1928 大阪府 - 2013 大阪府)

《女神》 1958 (昭和33) リトグラフ、紙 43.0×26.3

《レダ》 1958 (昭和33) リトグラフ、紙 27.5×43.5

《神話》 1958 (昭和33) リトグラフ、紙 40.0×26.0

レダはギリシア神話に登場する女性。神様のゼウスがレダに恋をして白鳥の姿となってレダを誘惑しました。

山野 千里 (YAMANO Chisato/1977 大阪府 - )

《ひそひそ話》 2008 (平成20) 陶 3.0×3.0×1.5虎上老人/3.5×4.0×3.0若者

シャガール, マルク (CHAGALL, Marc/1887 ベラルーシ - 1985 フランス)

《シェヘラザードの夜 『アラビアン・ナイトからの四つの物語』より》

1948 (昭和23) リトグラフ、紙 37.6×28.4 #

ササン朝ペルシャのシャフリヤール王は、最初の妻の不貞に怒り、次々に妻を処刑していきましました。大臣の娘であったシェヘラザードは王の妻となり、毎夜心躍る物語を王に話して聞かせました。話の続きを聞きたい王はシェヘラザードを殺すことなく、やがて広い心を取り戻したと言います。シェヘラザードが語ったおはなしが、アラビアン・ナイト、千夜一夜物語です。

《ニンフたちの洞穴での婚礼の祝宴 『ダフニスとクロエ』より》

1961 (昭和36) リトグラフ、紙 42.2×64.1 #

『ダフニスとクロエ』は古代ギリシアで書かれた恋愛物語。ダフニスとクロエが紆余曲折を経て結ばれるおはなしです。モーリス・ラヴェルが作曲したバレエ音楽でも知られています。

ファンタン=ラトゥール, アンリ (FANTIN-LATOURE, Henri/1836フランス - 1904フランス)

《パルジファルと花の精たち》 1885 (明治18) リトグラフ、紙 45.0×31.2

ドイツの作曲家リヒャルト・ワーグナー (1813-1883) が1865年に作曲した楽劇の一場面。花の精たちが聖なる愚か者パルジファルを誘惑しようとしています。

《神々の黄昏：ジークフリートとラインの乙女》

1898 (明治31) リトグラフ、紙 47.8×37.8

この作品もワーグナーの楽劇《神々の黄昏》の一場面。3人のラインの乙女の元を立ち去るジークフリートの姿が描かれています。

ルドン, オディロン (REDON, Odilon/1840 フランス-1916 フランス)

《『聖アントワーヌの誘惑』 第3集》より1896 (明治29) リトグラフ、紙 57.3×40.0

《聖アントワーヌ：主よ！助けたまえ！》《……わたしは孤独のうちに沈んだ。わたしはうしろの木に住んでいたのだ。》《アントワーヌ：これらすべての目的は何だろう？悪魔：目的などはないのだ！》《死神：わたしのおかげで、お前も本気になることができるのだ。さあ抱きあおう！》《ついに太陽が現われる……そしてまるい太陽のただなかに、イエス・キリストの顔が光りかがやく》

フランスの小説家ギュスターヴ・フローベール (1821-1880) の作品をもとに描かれた作品。紀元3世紀のキリスト教の聖人アントワーヌ (アントニウス) が一夜のうちに様々な悪魔の誘惑を経て、悟りを開くまでを描き出しています。ボスやブリューゲルが描いた作品があり、フローベールはそこから着想を得たそうです。

シャーン, ベン (SHAHN, Ben/1898 リトアニア-1969 アメリカ)

《リルケ『マルテの手記』より：一行の詩のためには…》より

1968 (昭和43) リトグラフ、紙 56.8×45.1

《扉 I》《鳥がいかに飛ぶのかを知らねばならぬ》《しんと静まった部屋で過ごした日々を》《白衣の中で眠りにおちて回復を待つ産後の女》《死にゆく人の枕元にもまた、ついていなければならぬ》《思い出が多くなれば、それを忘れなければならぬ。そして、思い出がふたたび蘇るまでを待つ大きな忍耐を持たねばならぬ。思い出そのものではまだなのだ。思い出が血となり、きらめきとなり、表情となり、名のないものとなり、もはやわたしたち自身と区別できぬものとなって初めて、ふとした時に、一篇の詩の最初の言葉がそのただ中から立ち上がり、生まれ出ていくのだ。》

オーストリアの詩人ライナー・マリア・リルケ (1875-1926) がパリで執筆した『マルテの手記』への共感から制作された版画集。リトアニアに生まれ、7歳で移民としてアメリカに渡ったシャーンは、28歳の時にパリを訪れます。作中のマルテも作者のリルケも、パリに来たのは同じ28歳でした。その共感が作品に結実するまでに、40年という時間がかかっています。

ダイン, ジム (DINE, Jim/1935 アメリカー)

《ドリアン・グレイの肖像》 1968 (昭和43) リトグラフ、銅版、紙 44.6×30.9

《虹のスカーフをつけたドリアン・グレイ》《ホース・ランプ》《黒い革のスーツをきたバジル》《極彩色の細長いビニール・ケープをつけたドリアン・グレイ》《化粧室のシビル》《赤いピアノ》《サテン・ハートのための赤いデザイン》《ドリアン・グレイの指輪のための習作》《阿片窟のドリアン・グレイ》《ドリアン・グレイの胃の刻印》

アイルランド出身の作家オスカー・ワイルド (1854-1900) の小説を元にした作品。美青年ドリアン・グレイの肖像画を友人の画家バジルが描く。グレイは女優シビルとの恋愛の後、彼女を捨て、殺人や阿片などの非道を重ねるが、自身は若く美しいままで、肖像画がどんどん醜くなっていくというおはなしをもとに、挿絵だけでなく本や外箱も作品として作られています。

ホックニー, デヴィッド (HOCKNEY, David/1937 イギリスー)

《放蕩者の遍歴》 1961-63 (昭和36-38) 銅版、紙 49.8×62.7

《到着》《遺産を相続する》《善良な人との出会い (ワシントンにて)》《ゴスペルを歌う (善良な人) (マディソン・スクエア・ガーデンにて)》《浪費のはじまり》《44.45kgの弱虫》《酒場》《オールドミスとの結婚》《選挙運動 (暗いメッセージで)》《牢獄を眺める》《ハーレムでの死》《財布が空になってゆく》《分裂》《排除》《他者との出会い》《精神病院》

イギリス出身のホックニーが、同じくイギリスの画家ウィリアム・ホガース (1697-1764) の



作品《放蕩者の遍歴》を下敷きに、現代風にアレンジした作品。莫大な遺産を相続したばかりに放蕩し、金目当てに結婚するものの落ちぶれて、最後は精神を病んでしまうという人物の生涯を連作で描いています。

ピカソ, パブロ (PICASSO, Pablo/1881 スペイン-1973 フランス)

《僧院》《マックス・ジャコブ著『聖マトレル』》より

1910-11 (明治43-44) 銅版、紙 19.9×14.1

《リューストラデー (女の平和)》1934 (昭和9) 銅版、紙 21.0×13.9

ピカソが物語の挿絵として描き、本の中に差し込まれている版画。マックス・ジャコブの詩『聖マトレル』にピカソが版画を添えるのは、画商であり出版も手がけていたカーンワイラーの企画。主人公のマトレルが最後に導かれ、最後に死んでいく僧院を、キュビズムの手法で描いています。『リューストラデー』はアテネとスパルタが戦ったペロポネソス戦争を舞台にとするアリストパネスの喜劇に、ピカソが装画を寄せたもの。

ガルシア・マクレーン, クララ (GARCIA MCLEAN, Clara/ コロンビア- )

《百年以上の孤独》 2002-04 (平成14-16) 亜鉛版、紙 38.0×28.5

《ウルスラ》《アマランタ I》《ピラル・テルネーラ》《レベーカ》《レメディオス・モスコート》《サンタ・ソフィア・デ・ラ・ビエダ》《レメディオス・ラ・ベラ》《アマランタ II》《フェルナンダ・デル・カルピオ》《ペトラ・コテス》《メメ I》《メメ II》《アマランタ ウルスラ》

ノーベル文学賞を受賞したコロンビアの作家ガブリエル・ガルシア＝マルケスの小説『百年の孤独』に登場する女性を描いた作品。

清原 啓子 (KIYOHARA Keiko/1955 東京都-1987 東京都)

《魔都》1987 (昭和62) /1988 (昭和63) 歿後刷 銅版、紙 45.0×55.2

《久生十蘭に捧ぐ》1982 (昭和57) /1988 (昭和63) 歿後刷 銅版、紙 55.0×31.1

《魔都霧譚》1986 (昭和61) /1988 (昭和63) 歿後刷 銅版、紙 47.0×30.2

小説家・久生十蘭の『魔都』から構想された一連の作品。

吉原 英雄 (YOSHIHARA Hideo/1931 広島県-2007 大阪府)

《版画集『公園』》 1974 (昭和49) リトグラフ、銅版、紙 60.1×45.4

《梅の季節》《かきつばた》《夏の日のベンチ》《午後》《雨の日》《芝生》

フランスの作家、フィリップ・ソレルスの実験的な小説『公園』に衝撃を受け、制作された作品です。ソレルスの『公園』そのものが小説を解体するような実験的な作品で、内容をなぞるのではなく、「公園」という場所を主題にした独自の作品となっています。

荒川 修作 (ARAKAWA Shusaku/1936 愛知県-2010 アメリカ合衆国)

《ムッシュー・テスト》 1971 (昭和46) 油彩、キャンバス 124.0×185.3

ムッシュー・テスト (テスト氏) はフランスの著述家ポール・ヴァレリー (1871-1945) が創作した人物。想像された横顔の輪郭が入り乱れています。

ロイ・リキテンシュタイン (LICHTENSTEIN, Roy/1923 アメリカ-1997 アメリカ)

《ふたつの絵画：ダグウッド》 1984 (昭和59) 木版、リトグラフ、紙 129.2×91.0

ダグウッドはアメリカの漫画『ブロンディ』の登場人物。主人公のブロンディと夫婦ですが、この作品のなかではひっくり返っています。

## たびのおはなし

旅行を一つのものごととして描いた作品があります。

浜田知明(はまだちめい)はヨーロッパ旅行の、岡本信治郎(おかもとしんじろう)はアメリカ旅行の印象を作品集にしています。

永瀬義郎(ながせよしろう)と旭正秀(あさひまさひで)は、昭和の初め頃ヨーロッパに行きましたが、当時はまだ飛行機による旅行は実用的ではなく、交通手段は船かシベリア鉄道でした。飛行機の着陸で始まり離陸で終わる岡本信治郎の作品に対して、永瀬義郎の作品からは中国、東南アジアからインド洋、紅海を通過してヨーロッパまでという道筋がわかります。旭正秀も実際にピラミッドを目にしています。目的地まで飛行機で行く旅行は便利ですが、昔の人の方がたくさん場所へ実際に行っていたのですね。

ハミッシュ・フルトンはイギリスの芸術家ですが、歩くことが自分の作品であるという主張を持っています。世界中の半島を海岸から海岸へと歩いて横断する旅をし、その印象を絵にしたり、途中で撮った写真を作品にしています。この作品は1986年の11月に6日間かけてアイルランドを横断した際の写真。ヒープスタウン・ケルンは紀元前3000年頃に作られた古墳です。

浜田 知明 (HAMADA Chimei / 1917 熊本県 - )

《わたくしのヨーロッパの印象記》1969-71 (昭和44-46) 銅版、紙 44.0×34.2  
《ロンドン塔》《鏡》《騎士と鍵と女》《騎士たちは静かに眠る》《地下牢》《ドーバー海峡》《パリの壁から》《グランプラス》《フランドル伯城》《ウィーン》

岡本 信治郎 (OKAMOTO Shinjiro / 1933 東京都 - )

《ベティ・ブープの国》 1974 (昭和49) リトグラフ、手彩色、紙 22.2×63.9  
《薄桃色の着陸》《階段のチャップリン》《私はセントルイスブルースの口笛を吹くのが好きだ》《黄色い離陸》

永瀬 義郎 (NAGASE Yoshiro / 1891 茨城県 - 1978 東京都)

《東洋の旅》より 1929-30 (昭和4-5) 木版、紙 33.0×24.0 / 24.0×30.0  
《上海所見》《香港夜景》《マレー美人》《シバの踊り (インド回想)》《スエズの日没》  
《ピラミッド》  
《Paris 朝 (エッフェル塔)》 1930 (昭和5) 木版、紙 30.7×22.0

旭 正秀 (ASAHI Masahide / 1900 京都府 - 1956 東京都)

『旭正秀滞欧版画紀念作品集』より 1933 (昭和8) 木版、紙 36.4×27.8  
《冬のエッフェル塔》《チャーガルデンの秋》《ピサの斜塔春景》《常夏のピラミッド》

フルトン, ハミッシュ (FULTON, Hamish / 1946 イギリス - )

《ヒープスタウン・ケルン》 1986 (昭和61) 写真、テキスト 119.5×137.3

## おはなしをみるところ

おはなしはまた演劇や映画の中でも見られます。そしてそれを見る人たちの姿を題材とした作品があります。舞台上で演じられるおはなしの場面を描きだしているのが大久保一や小野忠重。清水正博と藤森静雄は劇場を描いています。

大久保 一 (OKUBO Hajime/1911 長崎県-1991 大分県)

《[支那芝居]》 1933 (昭和8) 頃 木版、紙 16.2×22.5

小野 忠重 (ONO Tadashige/1909 東京都-1990 東京都)

《劇場》 1933 (昭和8) 頃 木版、紙 26.2×36.1

清水 正博 (SHIMIZU Masahiro/1915 東京都-)

《劇場 (浅草松竹座)》 1934 (昭和9) 木版、紙 23.0×15.9

画面の中に見える「エノケン一座」は、当時大人気だった榎本健一が率いた劇団のこと。エノケンはこの頃、「日本の喜劇王」とも呼ばれるぐらいの人気でした。

藤森 静雄 (FUJIMORI Shizuo/1891 福岡県-1943 福岡県)

《夜の歌舞伎座 (新東京百景 第2集第22号)》 1930 (昭和5) 木版、紙 18.0×24.5

東京の銀座に現在もある歌舞伎座ですが、ここに描かれているのは1925 (大正14) 年に建てられたもの。1945 (昭和20) 年の東京大空襲で全焼し、5年後に再建され、さらに4年前には建て替えられました。

永瀬 義郎 (NAGASE Yoshiro/1891 茨城県-1978 東京都)

《ある日の草人》 1928 (昭和3) 木版、紙 39.0×20.0

大きな魚を釣り上げて自慢気なのは、釣りが大好きだった俳優の上山草人 (1884-1954)。1919 (大正8) 年、アメリカに渡り、ハリウッド映画に出演して大活躍した人でした。1929 (昭和4) 年に帰国してからも映画に出演して活躍しましたが、一方で釣りが大好きだったそうです。

野長瀬 晩花 (NONAGASE Banka/1889 和歌山県-1964 東京都) ☆

《女優》 1947 (昭和22) 顔料、紙 36.3×43.4

花に囲まれた女優。モデルはわかりませんが、おはなしを演じる華やかさが伝わります。

ビアード, ピーター (BEARD, Peter/1938 アメリカ-)

《ジョナス・メカスの映画美術館のためのポートフォリオ 16 サン・クエンティン 1972》

1982 (昭和57) 写真 27.8×35.5

サン・クエンティンはアメリカ、カリフォルニア州にある刑務所。中央に立っているポケットに手を入れた人物は、小説家のトルーマン・カポーティ (1924-1984)。『ティファニーで朝食を』が映画化されてよく知られています。その右側でギターのチューニングをしているのは、カルト集団マンソン・ファミリーの一員として女優シャロン・テートを殺害し、収監されていたミュージシャンのボビー・ボーソレイユ。この時のインタビューがカポーティの『カメレオンのための音楽』に収録されています。

## 具体美術協会の作家たち

具体美術協会(ぐたいびじゅつきょうかい)は、1954(昭和29)年に関西の若手作家たちが結成し、1972(昭和47)年に解散したグループでした。

中心となったのは戦前から前衛芸術家として活躍していた吉原治良(よしはらじろう)ですが、「人の真似をするな」という指導の元、具体的に存在する現実の素材をそのまま表現に移行させる試みがなされました。

約20年に渡る活動の中で、多くの芸術家が参加しましたが、上前智祐(うえまえちゆう)は結成時からのメンバー。白髪一雄(しらがかずお)、田中敦子(たなかあつこ)、元永定正(もとながさだまさ)らは結成の翌年に参加しています。

60年代に参加して活動を始めた前川強(まえかわつよし)、松谷武判(まつたにたけさだ)、向井修二(むかいしゅうじ)らは3Mと呼ばれました。

近年その活動は国際的に再評価され、松谷は今年のヴェネツィア・ビエンナーレの企画展「Viva Arte Viva」に選ばれています。

元永 定正 (MOTONAGA Sadamasa/1922 三重県 - 2011 兵庫県)

《作品》 1964 (昭和39) アクリル、小石、キャンバス 281.0×181.2

前川 強 (MAEKAWA Tsuyoshi/1936 大阪府 - )

《作品》 1963 (昭和38) 塗料、麻布、綿布 162.5×130.5

松谷 武判 (MATSUTANI Takesada/1937 大阪府 - ) ☆

《WORK-63-9》1963 (昭和38) ビニール接着剤、油彩、水彩、キャンバス 187.0×192.0

向井 修二 (MUKAI Shuji/1940 兵庫県 - )

《作品》 1965 (昭和40) 油彩、キャンバス 182.8×136.8×8.0

上前 智祐 (UEMAE Chiyu/1920 京都府 - )

《作品》 1963 (昭和38) 油彩他、板 184.0×94.0

白髪 一雄 (SHIRAGA Kazuo/1924 兵庫県 - 2008 兵庫県)

《地察星 青眼虎》 1961 (昭和36) 油彩、キャンバス 194.0×130.6

田中 敦子 (TANAKA Atsuko/1932 大阪府 - 2005 )

《'61 赤と黒》 1961 (昭和36) ビニール絵具、キャンバス 175.0×129.5

## 展示室外の作品

### エントランス周辺

|                                               |             |               |                   |
|-----------------------------------------------|-------------|---------------|-------------------|
| ステラ, フランク (STELLA, Frank/1936 アメリカ- )         |             |               |                   |
| 《ラッカ III》                                     | 1968 (昭和43) | アクリル、キャンバス    | 304.0×760.0       |
| クルーガー, バーバラ (KRUGER, Barbara/1945 アメリカ- )     |             |               |                   |
| 《無題 (私を覚えていて) 》                               | 1988 (昭和63) | シルクスクリーン、ビニール | 378.7×268.1       |
| フラナガン, バリー (FLANAGAN, Barry/1941 イギリス-2009 )  |             |               |                   |
| 《ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎》                             | 1989 (平成元)  | ブロンズ          | 230.0×187.0×128.5 |
| グレコ, エミリオ (GRECO, Emilio/1913 イタリア-1995 イタリア) |             |               |                   |
| 《病人を看護する》                                     | 1963 (昭和38) | ブロンズ          | 157.0×186.5×12.0  |
| 北堅 吉彦 (KITANO Yoshihiko/1960 大阪- )            |             |               |                   |
| 《山並-senkoushu (鮮光朱) 》                         | 1999 (平成11) | 油彩            | 170.0×1020.0      |
| 秋山 陽 (AKIYAMA You/1953 山口県- )                 |             |               |                   |
| 《META-VOID》                                   | 2004 (平成16) | 陶             | 130.0×125.0×136.0 |
| 保田 春彦 (YASUDA Haruhiko/1930 和歌山県- ) ☆         |             |               |                   |
| 《格子と壁》                                        | 1998 (平成10) | ブロンズ          | 60.0×29.9×44.0    |
| 鈴木 久雄 (SUZUKI Hisao/1946 静岡県- )               |             |               |                   |
| 《塔体 I 》                                       | 1989 (平成元)  | 鉄             | 230.0×52.0×54.0   |
| 《塔体 III》                                      | 1989 (平成元)  | 鉄             | 230.0×54.0×54.0   |
| 《四角上三角》                                       | 1982 (昭和57) | 鉄、銅、鉛         | 53.0×42.0×29.5    |
| 《錐底円》                                         | 1982 (昭和57) | 鉄、銅、鉛         | 34.0×42.0×34.0    |
| 《風化儀式-III》                                    | 1983 (昭和58) | 鉄、白御影石        | 35.4×59.8×59.9    |
| 《風化儀式-IV》                                     | 1983 (昭和58) | 鉄、白御影石        | 57.0×60.0×60.0    |
| 《単錐台-II》                                      | 1984 (昭和59) | 鉄             | 113.0×119.5×120.0 |

### ライトコート

|                                               |                 |         |                  |
|-----------------------------------------------|-----------------|---------|------------------|
| 保田 春彦 (YASUDA Haruhiko/1930 和歌山県- ) ☆         |                 |         |                  |
| 《聚落を囲う壁 II》                                   | 1994-95 (平成6-7) | 鉄       | 60.0×127.5×451.2 |
| ノグチ, イサム (NOGUCHI, Isamu/1904 アメリカ-1988 アメリカ) |                 |         |                  |
| 《雲の山》                                         | 1982 (昭和57)     | 酸化処理した鉄 | 176.0×113.0×71.8 |

### 館周辺

|                                             |             |           |                    |
|---------------------------------------------|-------------|-----------|--------------------|
| 北尾 博史 (KITAO Hiroshi/1967 京都府- )            |             |           |                    |
| 《アシモトノセカイ》                                  | 1999 (平成11) | 銅、鉄       | 200.0×500.0×500.0  |
| スネルソン, ケネス (SNELSON, Kenneth/1927 アメリカ- )   |             |           |                    |
| 《着地》                                        | 1969 (昭和44) | ステンレススチール | 250.0×1000.0×360.0 |
| 建畠 覚造 (TATEHATA Kakuzo/1919 東京都-2006 東京都) ☆ |             |           |                    |
| 《MANJI》                                     | 1982 (昭和57) | ステンレススチール | 270.0×170.0×75.0   |
| 保田 春彦 (YASUDA Haruhiko/1930 和歌山県- ) ☆       |             |           |                    |
| 《球を覆う幕舎》                                    | 1994 (平成6)  | ステンレススチール | 208.0×335.0×305.0  |

和歌山県立近代美術館